

報告書

氏名	吉田和樹
研修名	子どもの健やかな成長を目指した育児支援の検討：スウェーデンの研究者・育児支援者から学ぶ
研修国	スウェーデン
研修期間	2020年2月18日 ～ 3月2日（14日間）
研修目的	本研修では、スウェーデンにおける育児支援の実践、研究について情報収集を行い、日本の育児支援者と育児支援の強みおよび今後の育児支援について検討することを目的とする。
研修内容	<p>1. 研修内容 育児支援に関する研究、実践について情報収集および意見交換</p> <p>2. スケジュール 2月18-19日：移動 2月20-21日：情報収集・意見交換（リンネ大学） 2月22日：地区踏査・情報収集 2月23日：情報収集・意見交換（ベクショー） 2月24-25日：情報収集（リンネ大学） 2月26日：地区踏査（ストックホルム） 2月27-28日：情報収集（リンネ大学） 2月29日：情報整理（ベクショー）、3月1-2日：移動</p> <p>※Region KronobergとKarolinska Universitetssjukhusetは感染症の予防のため訪問は控え、育児支援等に関する資料をいただき、情報共有できる体制を構築することができた。</p> <p>4. 研修の留意事項 1) 事前に渡航に伴い、福島県立医科大学学生の国際交流（海外渡航）に関する危機管理対応マニュアルを確認し、安全に配慮した。 2) 海外保険に加入し、たびレジに登録した。</p>
研修成果	<p>本研修では、スウェーデンにおける育児支援の実践、研究について情報収集を行い、日本の育児支援者と育児支援の強みおよび今後の育児支援について検討することを目的とした。情報収集で特に印象的であった内容は育児期の早期の段階で父親への支援も行われていること、父親の育児状況等を包括的に評価できる指標（主な項目：父親自身、家族、子ども、親になること）が育児支援機関で活用されていたことである。日本においても育児支援者が子どもを持つ父親を包括的に評価できる指標があればニーズにあった育児支援の実践につながると思われる。評価指標の作成においては育児支援者だけでなく、研究者と協力して作成することが重要である。また、スウェーデンにおける育児に関する研究の動向は育児ストレス、うつについて、母親のみだけでなく、父親を対象とした研究が蓄積されている。我々の調査においても両親ともに体調不良になること、両親の体調不良に関連した背景要因は母親の年齢が高い、夫婦育児家事協力がいないことであり、さらに好ましく</p>

	<p>ない育児状況と関連していた（小児保健研究, 2019; 78(5):428-436)。日本においても両親を対象とした研究が行われていること、育児支援者と研究者が連携できる強みがある。子どもをもつ父親の家事育児関連時間は短いため（平成23度・平成28年度社会生活基本調査）、健やかな子どもの成長を促すためには、前述した強みをいかして育児環境を整備する必要がある。そのほかに、産後うつの評価指標や予防接種について学び、育児経験のある方の自宅を訪問し、子育ての現状を伺いことができた。</p> <p>研修期間中に、リンネ大学において、看護学生の演習を見学することができた。演習は少人数制で、対象者役、看護師役、オブザーバーを決め、親子支援に必要となるコミュニケーション技術について実施されていた。演習後に、教員との振り返りの時間が確保されており、学生の学びについて丁寧にコメントし知識と技術の定着につながるよう工夫がなされていた。今回の研修は、感染症による影響もあり、研修期間中に変更が生じたが（予定していた育児支援機関に伺うことができなかった）、育児支援等に関する資料をいただくことができた。以上のことから、研修の目標は達成された。また、看護職には複雑化している課題に対応する能力が求められるため、知識や技術の向上は常に必要である。今回の研修で学んだことを看護職としての実践、研究者としての活動にいかしていきたい。</p>
<p>今後の取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問先の研究機関および育児支援関連機関との継続した協力体制の構築 本研修を通してスウェーデンの研究機関および育児支援関連機関と継続的に協力、情報共有できる体制を構築することができたため、この体制を大切にしていよいよ育児支援の実践を目指す。 2. 研修の成果報告と看護職の育成につなげる 育児支援者および看護系学生向けの報告会を開催し、育児支援の方向性を共有する。また、看護師・保健師の教育の場で活用する。 3. 育児講座、育児支援リーフレットの見直しおよび改訂 福島県において両親のニーズに合わせた育児支援を検討することは重要である。申請者は父親の育児支援を専門として、父親や親準備期になる男性を対象にした育児講座を各地域で開催している。本研修の成果をもとに育児講座、育児支援リーフレットを見直し、改訂の方向性を検討する。

